

②「技術情報について調べる」

※ 〈 〉 内は ISBN または ISSN、【 】 内は国立国会図書館請求記号

※定価について、本体に記載のないものは当該資料の出版社または
大手取次店での価格表示を記載した。

1. はじめに

1-1 技術情報提供サービスとは

技術情報提供サービスはビジネス支援の1つであると考えられます。ビジネス支援というと、「市場動向やマーケティングシェア」などの業界動向についての情報提供を考えがちですが、企画や販売だけがビジネスではありません。メーカー等においては、商品開発や技術開発の上で、急速な技術革新や顧客ニーズの変化に対応するために、最新の技術動向を把握しておくことが必要不可欠です。また、製品開発の上では原材料の物性データなどの情報も必要になります。このように、ビジネスの範囲を研究・開発まで広げて考えると、技術情報提供サービスはビジネス支援の1つであると言えるでしょう。

1-2. 利用者が求める技術情報とは

利用者が探している技術情報は、明確で特化された内容であることが多いという特徴があります。「最近、〇〇という部品の製造に用いられるようになった〇〇という技術について知りたい」とか「〇〇という物質の誘電率の温度依存性を知りたい」といった内容です。もちろん、「電池について知りたい」のようにあまり特化せずに尋ねられる場合もありますが、ビジネス目的の利用者が求めている情報は、総じて明確かつ特化された内容であるということができます。

1-3. 技術情報提供において図書館員に求められること

●様々な分野における技術情報についての基本的な事典類や用語集、データ集などのレファレンスブックを整備し提供すること。

⇒基本的なレファレンスブックを整備することで、技術自体や技術用語等についての調査を効率的に行うことができるようになります。

- 利用者に求められる技術情報についての情報源を迅速に利用者に提供すること。
⇒専門的な技術情報を求めている利用者に対応するためには、技術動向レポートにはどのような資料があるのか、それらを検索するためのデータベースやその検索方法、インターネット情報などを把握しておくことが重要です。専門的な技術情報を求めている利用者は既に調べたい事項が明確であることが多く、多忙な仕事の合間を縫って図書館に來館して調べものをしていることもあり、探している情報そのものが載っている資料の紹介を求める傾向が強いためです。
- 最新の技術動向を常に意識し、情報収集を怠らないようにすること。
⇒急速な技術革新と激しい顧客ニーズの変動の中で、技術情報は新しければ新しいほど好まれる傾向があります。技術情報には専門用語が多く、難しそうなイメージが先にたちますが、日経産業新聞の技術情報欄や日刊工業新聞を常にチェックする、技術動向資料を出版している出版社のホームページを定期的にチェックするなど、様々な情報収集の方法があります。

1-4. 国立国会図書館での取組み

- 国立国会図書館では、ホームページ上で提供している「テーマ別調べ案内」において、様々な技術分野について、基礎的な知識を得るための資料から技術動向を知るための資料やインターネット情報源を紹介しています。例としては、ナノテクノロジー、電子部品・半導体技術、燃料電池などがあります。技術分野についての「テーマ別調べ案内」は、まだ数が少ないですが、各産業に関する情報源を紹介する「産業情報ガイド」（「テーマ別調べ案内」内にあります）とリンクさせながら情報発信を今後強化していきたいと考えています。
- NDL-OPAC の検索では、技術動向資料などについて、資料の内容までは知ることはできません。そこで、前の研修科目「医療情報について調べる」で紹介した“目次検索システム”に主要な技術動向資料の目次を採録することで、効率のよい資料検索を支援しています。

1-5. 国立国会図書館が提供する「テーマ別調べ案内」の使い方

今回の研修科目では、当館が提供する支援ツールである技術関連の「テーマ別調べ案内」

について、その使い方を「電子部品・半導体技術」を一例にとりあげて紹介します。受講者の皆様が所属する各図書館において技術情報提供サービスを行う際に役立てていただければと思います。

技術関連の「テーマ別調べ案内」は以下に示す複数のコンテンツから構成されています。

- ① 基礎的知識を得るための資料
- ② 技術動向レポート類
- ③ 技術に関する専門雑誌
- ④ インターネット情報源

これらの各コンテンツでどのような情報源を紹介しているのか、紹介しているデータベースの具体的利用法などを実演も含めて解説していくことにします。

2. 基礎的知識を得るための資料

2-1. 参考図書類(辞典・事典・便覧・ハンドブックなど)

技術関連の「テーマ別調べ案内」で最初に掲載されているコンテンツは、「〇〇について基本的な知識を得るための資料」というコンテンツです。このコンテンツの中では、辞典、事典、便覧、ハンドブックなど当該技術について包括的に扱った参考図書の類を紹介しています。これらの参考図書類は、国立国会図書館では、科学技術・経済情報室に開架して来館利用者が調査で随時参照することを可能にしています。大学図書館では開架整備している機関が多いと思われますが、公共図書館でも開架整備が望まれる類の資料です。個々の資料の具体的な内容について、ここでは「電子部品・半導体技術」を例に2点ほど紹介しますが、「電子部品・半導体技術」に関する他の参考図書類や他の技術に関する参考図書類については、国立国会図書館ホームページの「テーマ別調べ案内」での紹介記事を参照してください。なお、「テーマ別調べ案内」で取り上げている各参考図書類の解題は、国立国会図書館の職員が資料の内容を確認しながら、執筆しています。

<電子部品・半導体技術に関して紹介している参考図書類の例>

- 『電子部品大事典』（田中國昭,脇野喜久男監修 工業調査会 2002.12 804p;23cm
〈4-7693-7110-1〉 定価：31,000 円 【ND2-H18】）

総論、電子部品編、応用技術編の3つに分かれており、総論では、電子部品の開発経緯・

実装技術の推移、電子部品の共通用語、チップ部品と実装技術の開発・技術動向等が記述されています。電子部品編では、受動部品、接続部品、変換部品、機能部品、メモリ部品、IC カード・メモリカード、安全部品、磁石、はんだといった個別電子部品、複合部品・モジュール部品、センサ、電子機器・ネットワーク対応関連（電子部品・ケーブル）等の概要、特性、構造、用途、使用例、今後の動向等について記述されています。応用技術編では、電子部品の技術動向、電子機器の今後の展開等が記述されています。

- 『半導体大事典』（菅野卓雄, 川西剛監修 工業調査会 1999.12 2011p;23cm
〈4-7693-7082-2〉 定価：45,000 円 【ND2-G53】）

半導体技術は研究・開発費用、設備・施設費用も莫大で産業としての規模も大きく、半導体技術は半導体産業の在り方に密接に関連するという観点から、工学・技術編と産業・市場編で構成された事典です。工学・技術編では、シリコン半導体材料、半導体材料の物性、半導体プロセス技術、半導体デバイスの設計、シリコン半導体デバイス、デバイス測定・評価技術、半導体実装・組立技術、化合物半導体デバイスの 8 項目に分けて、各項目における関連語の解説がなされています。

これらの基本的な事典や用語集は、利用者から技術について尋ねられたときに、まず参照すべき資料といえます。資料の概要、つまりこういったテーマに沿って編集されていて、どのような内容なのかということを理解しておくことで利用者に対してスムーズな案内が可能となります。

2-2. 平易に記述された技術解説書

2-1.で紹介した技術関連の事典は、比較的専門的な用語が用いられており、基本的知識がない利用者にとっては理解が困難な場合があります。このような場合は、専門家が初心者向けに執筆している技術解説書を紹介するとよいでしょう。初心者向けの技術解説書は、分かりやすく図解されていることが多く、記述自体も事典類より平易になっているという特徴があります。また、日刊工業新聞社や工業調査会など技術系の出版社から刊行されている図書で、タイトルに「図解」、「よくわかる」、「やさしい」などの語を含むものは、この類の資料に該当する可能性が高いといえます。なお、これらの資料は、現在のところ、技術関連の「テーマ別調べ方案内」では紹介していませんが、今後、紹介していく予定です。

<電子部品・半導体技術に関する平易に記述された技術解説書の例>

- 『よくわかる半導体パッケージのできるまで』(沼倉研史,E.Jan Vardaman 著 日刊工業新聞社 2005.12 156p;21cm 〈4-526-05558-1〉 定価：1,800 円 【ND371-H108】)

半導体パッケージ技術の関連分野で 25 年以上活躍してきた著者が、半導体パッケージ技術について、図や写真を用いながら分かりやすく解説しています。従来のパッケージ技術、新しいパッケージ技術、これからの IC パッケージについて概観したのち、組立と基礎技術やパッケージに使われる材料についての解説があります。

なお、技術関連の初心者向け解説書には、以下のようにシリーズとして刊行されているものもあります。

- 『今日からモノ知り』シリーズ (日刊工業新聞社)

- ・『トコトンやさしい有機 EL の本』(森竜雄著 日刊工業新聞社 2008.4 159p;21cm 〈978-4-526-06049-6〉 定価：1,400 円 【ND416-J27】)
- ・『トコトンやさしい太陽電池の本』(産業技術総合研究所太陽光発電研究センター編著 日刊工業新聞社 2007.1 159p;21cm 〈978-4-526-05795-3〉 定価：1400 円 【ND416-H166】)
- ・『トコトンやさしい発光ダイオードの本』(谷腰欣司著 日刊工業新聞社 2008.1 159p;21cm 〈978-4-526-05990-2〉 定価：1,400 円 【ND371-J7】)

- 『図解』シリーズ (工業調査会)

- ・『図解半導体ウェットプロセス最前線：めっき・CMP・洗浄、そしてデバイスへの応用』(辻村学著 工業調査会 2007.12 211p;21cm 〈978-4-7693-1270-3〉 定価：2,300 円 【ND371-J25】)
- ・『図解最先端半導体パッケージ技術のすべて』(半導体新技術研究会編 村上元監修 工業調査会 2007.9 333p;26cm 〈978-4-7693-1267-3〉 定価：3,500 円 【ND371-J13】)
- ・『図解プリント配線板材料最前線』(杉本榮一監修 工業調査会 2005.1 302p;21cm 〈4-7693-1237-7〉 定価：2,800 円 【ND541-H17】)

- 『図解でわかる』シリーズ (日本実業出版社)

- ・『図解でわかる半導体製造装置』(菊地正典監修 日本実業出版社 2007.4 182p;21cm 〈978-4-534-04217-0〉 定価：1,900 円 【ND371-H164】)
- ・『図解でわかる半導体とシステム LSI：電子回路の基本から機能ブロック、IP マクロ、LSI 設計、SPICE 活用まで』(菊地正典監修 日本実業出版社 2006.7 350p;21cm

〈4-534-04086-5〉 定価：2,800 円 【ND386-H161】)

- ・ 『図解でわかる電子デバイス：半導体、IC のしくみから表示デバイス、無線応用デバイスまで』(菊地正典,影山隆雄著 日本実業出版社 2005.12 251p;21cm
〈4-534-04008-3〉 定価：2,000 円 【ND354-H34】)

2-3. 事例:コンデンサについて調べたい

★重要★

コンデンサについて具体的にどのような事項を調査したいのかを、まず最初にレファレンスインタビューにより明確にします。

①「アルミニウム電解コンデンサの構造」について調べたい

- ・ コンデンサは電子機器に関わる受動部品であるので、電子部品についての事典などに質問事項に関する記載があるのではないかとあたりをつけます。「テーマ別調べ案内」の関連コンテンツで紹介されている参考図書を参照します。
 - ・ さらに目次検索システムで「アルミニウム電解コンデンサ」や「アルミ電解コンデンサ」の項目がある事典類を探し、目次情報から質問事項に関する記載があるのではないかとあたりをつけます。
- ⇒ ●『電子部品大事典』【ND2-H18】の「電子部品編」の p.151-211 に「コンデンサ」の項目があり、p.181-203 で「アルミニウム電解コンデンサ」を取り上げており、p.182 に構造図があります。
- ⇒ ●『最新電子部品・デバイス実装技術便覧』【ND2-H36】の「Ⅲ 部品技術編」の「第2章 受動部品」の p.435-544 に「コンデンサ」の項目があり、p.444-457 で「アルミ電解コンデンサ (面実装形)」取り上げており、p.444 に構造図があります。

②「コンデンサの仕組みについて初心者でも分かりやすく書かれている資料を見たい」

- ・ NDL-OPAC をタイトルに「よくわかる 電子部品」や「図解 電子部品」などを入力して検索し、技術系の出版社の図書であれば、平易で信頼性の高い記述がなされているのではないかとあたりをつけます。
- ⇒ ●『よくわかるチップ型電子部品のできるまで R(抵抗器)・C(コンデンサ)・L(インダクタ)』【ND354-H24】の「第3章コンデンサ C のできるまで」(pp.74-117) でコンデンサの基礎特性や役割、種類、基本設計、製造などについて図を用いながら平

易に解説しています。

- ⇒ ●『図解わかる受動電子部品：抵抗器・コンデンサ・インダクタの基礎と使い方』
【ND354-H49】の「コンデンサ」(pp70-96)でコンデンサの基本動作や基本構造、
基本特性、種類などを解説しています。

目次検索システムや出版社のホームページを参照し、目次の情報まで提示できればベストです。

■レファレンス対応の上でのポイント■

利用者の質問が「～について調べたい」と漠然としている場合、求めている情報が、構成している部品・材料についての情報なのか、製造技術についての情報なのか、あるいは用語の意味を知りたいだけなのかによって見るべき事典や用語集、解説書は異なってきます。利用者へのレファレンスインタビューにより、質問事項をより明確にすることは重要です。

<レファレンス協同データベースの事例から>

- ・ ボタン電池のケースにつけるスイッチに関する資料はあるか。(神奈川県立川崎図書館)
⇒『電子部品大事典』に記載あり。
- ・ テレビなどの電化製品で用いられているリモコンのしくみを詳しく知りたい。回路、配線の図面が載っている資料を紹介してほしい。(大阪府立中央図書館)
⇒『100例にみるセンサ応用技術』にテレビリモコンセンサの説明と図表の掲載あり。

3. 技術動向レポート類

技術関連の「テーマ別調べ案内」の2番目のコンテンツは、「〇〇に関する技術動向レポート類」というコンテンツです。より専門的な技術情報を調べるためのツールを紹介しています。事前アンケートで技術動向レポート類についてお聞きしたところ、ご存知でない方が多いようでしたので、どのような出版社がどのような内容で刊行しているのかを「電子部品・半導体技術」を例に紹介したいと思います。

3-1 技術動向レポート類とは

技術動向レポート類には、以下のような特徴があります。

- ・ 企業の第一線で実務に携わる技術者が、特化した技術に関する総説として執筆していることが多く、技術情報として質が高い。
- ・ 技術動向を知る上で国内刊行物としては主要な資料である。
- ・ 総説的性格のため、研究成果の雑誌投稿論文等に比べ情報鮮度は落ちる。
- ・ 他の資料と比べてかなり高額である。(平均価格 ￥50,000 以上)

国立国会図書館では、ビジネス目的の来館者の活発な利用を想定して、技術開発・製品開発に直結する技術動向レポート類を科学技術・経済情報室に開架しており、多くの利用を集めています。高額ゆえ、どこの図書館でも幅広く購入できる資料ではありませんが、遠隔複写サービス等を念頭に、これらの技術動向レポート類を「テーマ別調べ案内」にて紹介しています。

では、次に実際の技術動向レポート類がどのような資料なのかを、刊行する出版社ごとにテーマ別調べ案内「電子部品・半導体技術について調べるための技術動向レポート類」で紹介している資料を例に挙げてご紹介します。

3-1-1. シーエムシー出版の技術動向レポート類

- ・ ファインケミカル、エレクトロニクス、新材料・新素材、バイオ、食品、環境・エネルギーといった分野の技術情報を扱っています。
- ・ 国立国会図書館の科学技術・経済情報室では、閲覧、複写とも大変多い資料です。
- ・ 国立国会図書館には、2007 年度に 68 冊が納本されています。
- ・ シーエムシー出版は、技術情報レポート類資料の普及版を概ね 5～10 年後に比較的安価で刊行しています。

例：『色素増感太陽電池の最新技術』（2001.5 348p;27cm 〈4-88231-314-6〉 定価：65,000 円 【ND416-G138】）

『色素増感太陽電池』（2007.8 340p;21cm 〈978-4-88231-933-7〉 定価：4,800 円 【ND416-J10】）

※ なお、シーエムシー出版は、『月刊ファインケミカル』【Z14-1260】、『月刊機能材料』【Z14-909】、『月刊バイオインダストリー』【Z14-1075】など技術情報を収載した雑誌を刊行しています。(これらの雑誌は、テーマ別調べ案内「〇〇に関する主要専門雑誌」で紹介しています。)

- ※ シーエムシー出版の刊行物の詳細については、出版社のホームページ
(<http://www.cmcbooks.co.jp/index.php>)で知ることができます。
- ※ シーエムシー出版が刊行する技術レポート類には、Google ブック検索
(http://books.google.co.jp/bkshp?hl=ja&utm_source=ja-wh)で全文検索および部分的な閲覧ができる場合があります。

＜電子部品・半導体技術に関して紹介している技術動向レポート類の例＞

- 『高周波半導体材料・デバイスの新展開』（佐野芳明,奥村次徳監修 シーエムシー出版
2006.11 266p;27cm 〈4-88231-582-3〉 定価：65,000 円 【ND371-H155】）

次世代ワイヤレス通信での応用が期待される高周波半導体材料・デバイスについて技術的に解説した資料です。監修者のほか 27 名の大学や企業の技術者が執筆しています。構成は、「展望 高周波利用のゆくえ、デバイスの位置付け」、「第Ⅰ編 化合物半導体基盤技術」、「第Ⅱ編 結晶成長技術」、「第Ⅲ編 デバイス技術」になっています。「第Ⅰ編 化合物半導体基盤技術」では、GaAs 基板や SiC 基板、新材料系基板について、「第Ⅱ編 結晶成長技術」では、Ⅲ-V 族化合物成長技術、Ⅲ-N 化合物成長技術、Smart Cut (TM) によるウェーハ貼り合わせ技術について、「第Ⅲ編 デバイス技術」では、Ⅲ-V 族系デバイスⅢ族窒化物系デバイス、シリコン系デバイス、テラヘルツ波半導体デバイスについての記載があります。

3-1-2. 技術動向レポートの出版社と取扱分野

(1) 技術情報協会が刊行する技術動向レポート類について

- ・ 化学、エレクトロニクス、医薬品、医療機器、化粧品などの分野の技術情報を中心に扱っています。
- ・ 化学やエレクトロニクスだけではなく、医薬品、医療機器などの分野も扱っているので、医療関係の技術動向にも強いのが特徴といえます。
- ・ 2007 年刊行の技術レポート類が国立国会図書館に 53 冊納本されています。

- ※ なお、技術情報協会は、『マテリアルステージ』【Z74-C308】、『ファームステージ』【Z74-C325】、『コスメティックステージ』【Z74-F638】といった技術情報を収載した雑誌を刊行しており、最新技術情報を得ることが可能です。（これらの雑誌は、テーマ別調べ方案内「〇〇に関する主要専門雑誌」で紹介しています。）

※ 技術情報協会の刊行物の詳細については、出版社のホームページ
(<http://www.gijutu.co.jp/>)で知ることができます。

＜電子部品・半導体技術に関して紹介している技術動向レポート類の例＞

●『化合物半導体の最新技術大全集』(越路恵一企画編集 技術情報協会 2007.4 497p 図版 13 枚;27cm 〈978-4-86104-144-0〉 定価：88,200 円 【ND371-H166】)

化合物半導体の技術動向に関する資料です。「化合物半導体の最新技術動向」、「発光素子用基板の大口径化と加工」、「Ⅲ－Ⅴ族化合物半導体の技術動向」、「Ⅱ－Ⅵ族化合物半導体の技術動向」、「白色発光ダイオードの関連技術」、「発光素子の応用技術」、「化合物半導体のプラズマエッチング技術」、「アジアの LED 市場」の 8 章で構成され、図表を用いて化合物の基本的な性質やその応用技術と製品開発までを述べています。特に 8 章では、白色 LED 市場で台頭してきた韓国、台湾に焦点を当て、特許、意匠権、そのほかの知的財産権に関する紛争を取上げています。巻頭には主要なカラーデータ、巻末には数字、アルファベット、五十音順の索引が付いています。

(2) 東レリサーチセンターが刊行する技術動向レポート類について

- ・ エレクトロニクス、材料・素材・技術、環境・エネルギー、ファインケミカル、バイオ・メディカルの各分野の技術情報を扱っています。
- ・ 2007 年刊行の技術動向レポート類が 16 冊国立国会図書館に納本されています。
- ・ 刊行されている冊数はシーエムシー出版や技術情報協会に比べ少ないようです。

※ なお、東レリサーチセンターは出版社ではなく、リサーチ会社であり、幅広い分野を扱ってはいますが、雑誌等は刊行していません。

※ 東レリサーチセンターの刊行物の詳細については、出版社の「調査研究レポートの販売」のページ(<https://www.trcbook.com/>)で知ることができます。

＜電子部品・半導体技術に関して紹介している技術動向レポート類の例＞

●『先端実装技術の動向』(東レリサーチセンター調査研究部門 2007.1 493p;30cm 定価：68,000 円 【ND354-H65】)

携帯電話や高周波通信機器の性能向上を考えるにあたり、従来の LSI に代って半導体のパッケージを中心とする実装技術が重要視されつつあります。この資料では、半導体パ

パッケージ実装技術の中から、特に 3 次元 SiP、高周波対応技術、鉛フリーはんだ対策などを取り上げ、情報をまとめています。本文は、「高密度実装技術の現状と展望」、「SiP を支える接着技術の動向」、「高密度プリント配線板の製造技術」、「高機能パッケージ基板・プリント配線板の開発動向」、「フリップチップ、3 次元微細接合技術の開発動向」、「フレキシブルプリント配線板の開発動向」、「金属ナノ粒子を用いた次世代実装技術の現状と課題」、「鉛フリー対策技術の動向」、「部品内蔵基板の開発動向」の全 9 章から構成されています。各章では、技術の概要、課題、将来動向などが解説され、各社の実装技術の開発動向も紹介されています。

(3) 電子ジャーナル社が刊行する技術動向レポート類について

- ・ 半導体、LCD (Liquid Crystal Display)、FPD (Flat Panel Display)、光デバイス、MEMS (Micro-Electro-Mechanical Systems)、その他の電子デバイスや実装などについて、最新の市場動向、業界動向、技術動向を扱っています。また、電子ジャーナル社は、市場動向と企業動向についての年刊のデータブックも刊行しています。
- ・ 2007 年刊行の技術動向レポート類が 12 冊国立国会図書館に納本されています

※ なお、電子ジャーナル社は、『Electric journal』【Z16-B188】という月刊雑誌を刊行しており、電子部品や半導体技術の最新動向を知るのに有用です。

※ 電子ジャーナル社の刊行物の詳細については、出版社のホームページ (<http://www.electronicjournal.co.jp/>) の「Data Books / Market Report」及び「Technical Books」のタブをクリックすることで知ることができます。

<電子部品・半導体技術に関して紹介している技術動向レポート類の例>

●『半導体テクノロジー大全』（電子ジャーナル 隔年刊 【Z74-B110】）

半導体デバイスの特徴や設計・製造・検査・測定・評価などの技術から半導体工場・搬送システムまで、半導体に関して幅広く解説した資料です。2007 年版では、以下のような記述がなされています。「第 1 編 半導体デバイス」では、半導体における基本的な術語について解説し、「第 2 編 デバイス設計技術」では、システム LSI、高性能ロジック LSI、メモリ、アナログ LSI などの設計技術を解説しています。「第 3 編 ウェーハ基板」では、Si ウェーハのほか、GaAs、GaP、InP、GaN、SiC の各化合物半導体ウェーハの合成・結晶育成・加工技術について解説しています。「第 4 編 半導体製造技術」では、半導体製造の工程別に技術を解説しています。項目ごとに、半導体デバイスを製造するメ

ーカーの技術者が執筆しており、技術の解説だけでなく、今後の課題や動向についても記述されています。

(4) その他の出版社が刊行する技術動向レポート類について

上記以外では、以下の出版社が技術動向レポート類を刊行しています。

- ・サイエンス&テクノロジー

分野：化学・高分子・エレクトロニクス、医薬品・医療機器・化粧品

2007年刊行タイトル数：10冊（国立国会図書館納本実績）

出版社ホームページ：<http://www.science-t.com/>

- ・エヌ・ティー・エス

分野：ナノテク、応用物理、IT、エネルギー・電気、化学・化学工業、高分子、バイオ・メディカル、食品、水産、環境、リサイクル、設備・機械など

2007年刊行タイトル数：18冊（国立国会図書館納本実績）

出版社ホームページ：<http://www.nts-book.co.jp/item/index.php>

3-2. 技術動向レポート類の利用者への提供

3-2-1. 利用者への案内手順

技術動向レポート類は高額資料のため、所蔵している図書館は少数です。このような資料については、一般的に以下のような手順で利用者に案内していきます。

Step 1. 案内する技術動向レポート類の特定

Step 2. 自館の所蔵調査

Step 3. 所蔵機関調査

Step 4. 図書館間貸出または遠隔複写サービスの案内

以下では、各ステップについて、解説します。

3-2-2. 案内する技術動向レポート類の特定(Step 1)

まずは、利用者がどのような情報を求めているのかをレファレンスインタビューによって明確にし、その情報がどの資料に掲載されているのかを検索する必要があります。資料の内容については、

- ・ 目次検索システム
- ・ Google ブック 検索（シーエムシー出版の書籍の一部のみ）

で調べることができます。

また、技術動向レポート類を刊行している主要出版社を把握しておくことで、各出版社のホームページにアクセスし、各出版社が提供している目次情報を参考に、刊行物リストから利用者が探している情報に近い技術動向レポート類を見つけるという方法も考えられます。

このように、技術動向レポート類を所蔵していない図書館であっても、利用者が求める技術情報が掲載されている可能性の高い技術動向レポート類を紹介することは可能です。

3-2-3. 自館の所蔵調査(Step 2)と所蔵機関調査(Step 3)

現在、どこの図書館においても資料購入費は潤沢といえる状況にはありません。技術動向レポート類がビジネス目的の利用者にとっていかに有用であっても、このような高額資料は予算の制約から購入が困難な図書館がほとんどではないかと思われます。予算規模の小さい市町村立図書館であればなおさらでしょう。よって、前節で紹介した方法により、利用者に紹介できる資料が見つかったとしても、自館には所蔵がない場合がほとんどでしょう。

このような場合は、自館以外の図書館で紹介したい資料を所蔵している機関を探し、その図書館からの文献入手方法を探ることになります。所蔵機関を探すインターネット上の検索ツールには以下があります。

(1) NDL-OPAC(<http://opac.ndl.go.jp/index.html>)

国立国会図書館のオンライン所蔵目録です。国立国会図書館での所蔵の有無を確認することができます。

(2) 総合目録ネットワークシステム

(<http://unicanet.ndl.go.jp/psrch/redirect.jsp?type=psrch>)

国立国会図書館が提供するオンライン総合目録です。国立国会図書館、都道府県立図書館、政令指定都市立図書館計 61 館（平成 20 年 11 月現在）の所蔵状況を確認することができます。

(3) Webcat Plus(<http://webcatplus-equal.nii.ac.jp/libportal/equalTop.html>)

国立情報学研究所 (NII) が提供するオンライン総合目録です。全国の大学図書館等の所蔵状況を確認することができます。

なお、総合目録ネットワークシステムに加入していない都道府県立図書館もあるので、自館の所属している都道府県の都道府県立図書館のオンライン目録は必ず検索するようにした方がよいでしょう。所蔵機関が見つかった場合は、その機関からの文献入手方法を調べることになります。

3-2-4. 図書館間貸出または遠隔複写サービスの案内(Step 4)

所蔵している機関の中から図書館間貸出 (ILL : Inter-Library Loan) や遠隔複写サービス (DDS : Document Delivery Service) に対応している機関が見つかった場合は、利用者への案内が可能になります。通常、資料の内容を見ることなく、費用負担が生じる遠隔複写を希望するケースは少ないと思われるため、基本的な優先順位は以下のとおりとなります。

- ① 図書館間貸出制度 (ILL)を利用する
- ② 遠隔複写サービス (DSS) を利用する

ただし、図書館間貸出は再び最寄りの図書館に来館する必要があったり、日時を要する場合があったりするため、急ぎの文献入手を希望することが多いビジネス目的の利用者の場合、①と②の優先順位が入れ替わる場合があります。このあたりの判断は、利用者の希望を聴取しつつ行うことになります。

ほとんど所蔵機関がなく、国立国会図書館からの図書館間貸出ができない資料(※1 参照)については、国立国会図書館からの遠隔複写サービスを利用することになると思われます。国立国会図書館の遠隔複写サービスについては、当館ホームページの遠隔複写サービスのページ(<http://www.ndl.go.jp/jp/service/copy3.html>)を参照してください。なお、遠隔複写サービスにおいても、複写は著作権法の範囲内(著作権者の許諾がない場合、図書については一著作物の半分以下のみ複写可能)となるので、ご注意ください(※2 参照)。

※1 国立国会図書館から図書館間貸出ができない資料とは、主に館内の各種情報室で開架されている資料などが該当します。技術動向レポート類で刊行後 3 年に満たないものは、東京本館内の科学技術・経済情報室および関西館内の総合閲覧室で開架している場

合がほとんどであるため、図書館間貸出を利用できるケースはあまりないと思われます。

※2 技術動向レポート類のうち、特にシーエムシー出版の技術レポート類については、章単位で一著作物になっている場合がほとんどであり、目次検索システム等で複写箇所の特定をしても全文の複写が不可能のケースが少なくありません。この点にご注意ください。

3-3. 事例:太陽電池について調べたい

ここでは、電子部品・半導体技術のうち、半導体の一種である太陽電池について、以下のような質問を受けたと仮定して、技術動向レポート類を探してみることになります。

色素増感太陽電池の高性能化に関する技術動向について知りたい。

[調査手順]

(a) 目次検索システムを利用できる機関の場合

(1) 目次情報システムで検索キーワード欄に「色素増感 太陽電池 高性能」と入力して検索します。(2008.10.31 現在 20 件ヒット)

※ 検索をかける前に「検索オプション」をクリックし、「検索結果の並び順」で「刊行年(降順) -- 書名(昇順)」を選択してください。(検索結果を刊行年の新しい順に並べるため)

※ 色素増感と太陽電池の間にスペースを入れるのは、“色素増感太陽電池”と“色素増感型太陽電池”という2つの表現があるためです。

※ 検索語として、“高性能化”ではなく“高性能”を選んでいるのは、“高性能色素増感太陽電池の開発”などをヒットさせるためです。

(2) 出版社の情報から技術動向レポート類と思われる資料を選び、「HTML」の右にある「〇〇K」のリンクをクリックして表示される目次情報から利用者の要望にマッチする資料を探します。

※ (1)の検索では「色素増感」、「太陽電池」、「高性能」のそれぞれの語が目次全体の中に含まれていればヒットするので、「色素増感太陽電池の高性能化」という文脈の目次がヒットするとは限りません。目次中に「色素増感の仕組み」、「太陽電池の生産量」、「高性能給湯システム」といった項目が並んでいるだけでもヒットするので、検索ノイズに注意する必要があります。

(b) 目次検索システムを利用できない機関の場合

(1) NDL-OPAC の「一般資料の検索／申込み」で、タイトル欄や件名欄に「太陽電池」と入力して検索します。この時、技術動向は新しい情報こそ意味をもつことを考慮の上、出版年を設定して検索してください。

※ タイトル欄に目次検索システムと同じように「色素増感 太陽電池」と入力して検索することも可能ですが、この検索では、タイトルには「色素増感太陽電池」という語は含まれていないものの資料の一部で色素増感太陽電池を取り上げている資料が検索から漏れてしまうため、より広く検索を行うことにします。

(2) 出版社の情報から技術動向レポート類と思われる資料を選びます。

(3) 以下のいずれかの方法で出版社のホームページにある当該資料の紹介ページを見つけ、掲載されている目次情報から利用者の要望にマッチする資料を探します。

・ Google(<http://www.google.co.jp/>)で書名の完全一致検索を行う。

→ Google の検索窓に、書名の前後にダブルクォーテーション (") を入れた文字列を入力して検索します。

・ 出版社のホームページを探し、刊行書籍リストから(2)で見つけた資料を探します。

上記の調査手順で調べると以下のような技術動向レポート類が見つかります。

- 『電池革新が拓く次世代電源』（エヌ・ティー・エス 2006.2 620,20,5p;27cm
〈4-86043-102-2〉 定価：42,200 円 【PA185-H51】）

(a)で用いている目次検索システムでヒットする資料です。タイトルに「色素増感太陽電池」はおろか「太陽電池」すら入っておらず、NDL-OPAC を件名「太陽電池」で検索しても ヒットしないため、(b)の方法ではこの資料を引き出すことはできません。目次検索システムの効力が十分に発揮されたケースといえるでしょう(目次検索システムなしでこの資料を引き出すためには、出版社であるエヌ・ティー・エスのホームページにある刊行書籍の紹介をブラウジングして探すことになります)。目次情報(出版社の目次：http://www.nts-book.co.jp/item/detail/contents/energy/20060131_35.html)を見ると、「4. 太陽電池」の中に以下の項目があります(関係しない項目は適宜省略しています)。

4.1. 色素増感太陽電池

4.1.1. 色素増感太陽電池の最近の展開

2. 色素増感太陽電池の性能 p.164

- ・ 現在の最高性能

- ・新しい高性能色素の開発
- 4. これからの課題 p.171
 - ・変換効率 15%へ向けてのさらなる高性能化
 - ・高性能化への開発戦略
- 4.1.4. メタルフリー色素を用いた高性能色素増感太陽電池の開発 p.193
- 4.1.6. 固体型色素増感太陽電池の高性能化 p.221

●『最新太陽電池総覧』（技術情報協会 2007.9 488p;27cm 〈978-4-36104-153-2〉 定価：88,200 円 【ND416-H188】）

(b)の方法でヒットする資料です。この資料は刊行年が新しいため、(a)の方法ではヒットしません。目次検索システムにはデータ採録のタイムラグが存在するため、刊行から日が浅い資料は検索漏れを起こしてしまうことに注意してください。出版社のホームページから目次情報(http://www.gijutu.co.jp/doc/b_1391.htm)を参照すると、「第3章 有機系太陽電池」に以下の項目があります。

- ・総説
 - 3. 色素増感太陽電池
 - 3.2 色素増感型太陽電池の高効率化指針 p.190
- ・第2部 色素増感太陽電池
 - 第1節 実用化に向けた開発動向
 - [2] 色素増感太陽電池の高効率化技術と各種環境下におけるセル特性 p.254
 - 第5節 電解質
 - [2] デンドリマーを組み込んだ色素増感太陽電池
 - 1. 色素増感太陽電池の等価回路と高効率化指針 p.436
 - 2. 電解質の役割と高効率化への試み p.438
 - 6. デンドリマーの金属集積能による色素増感太陽電池の高効率化 p.445

これらの資料を利用者に紹介して、利用者が閲覧（または複写物の入手）を希望した場合、まずは自館での所蔵の有無を確認しますが、所蔵がない場合には、3-2-3.で紹介したツールを用いて他の所蔵機関を探すことになります。たとえば、『電池革新が拓く次世代電源』については、以下のような結果が得られます。

- ・総合目録ネットワーク検索結果
 - 国立国会図書館以外に東京都立中央図書館、神奈川県立川崎図書館など4機関が所

蔵しているようです。

- ・ Webcat Plus 検索結果

- 東京工業大学附属図書館、京都大学工学部電気系図書室など 88 機関が所蔵しているようです。

近隣の図書館で所蔵している場合は利用者に所蔵機関に訪訪しての閲覧を案内することもできますし、遠く離れた図書館でしか所蔵していない場合であっても所蔵機関が図書館間貸出を行っていただければ取り寄せて利用者に見ていただくことができます。場合によっては、現物を見ることなく、国立国会図書館からの遠隔複写を希望されるかもしれません。このあたりの対応は、利用者の希望を聞きながら対応することになります。

4. 技術動向に関する主要専門雑誌

4-1. 技術動向に関する主要専門雑誌について

技術関連の「テーマ別調べ案内」の3番目のコンテンツは、「〇〇に関する主要専門雑誌」というコンテンツです。専門雑誌は刊行頻度が月刊のものが多く、それゆえ技術に関する専門的な最新情報を得ることができます。技術情報とあわせて市場動向も知ることができる雑誌もあり、業界全体の動きを知ることができます。このような専門雑誌のうち、ある程度汎用性を有するものを図書館内に開架しておくことで、利用者はブラウジングによって、技術の最新動向を把握することが可能となります。また、当該分野を専門としない利用者がブラウジングにより、新たなビジネスヒントを得ることがあるかもしれません。国立国会図書館では、技術に関する専門雑誌のほとんどは書庫に配置していますが、汎用性がありビジネス目的の利用者に資するものを選定して、東京本館の科学技術・経済情報室に開架しています。技術関連の「テーマ別調べ案内」では、これらの開架している雑誌を中心に当該分野の技術情報を把握するのに有用と考えられる技術専門雑誌を紹介しています。

<電子部品・半導体技術に関する主要専門雑誌の例>

- 『Semiconductor FPD world』（プレスジャーナル〔編〕 プレスジャーナル 2000-28cm 〈1345-7713〉 【Z16-1239】）

半導体・FPD、製造技術・製造装置、材料の技術情報、企業の事業戦略や市場データなどの産業情報を提供する総合誌です。また、昨今注目のクリーンエネルギー関連の最新情報も提供しています。バックナンバーの目次は Press Journal online のページ

(<http://www.pressjournal.co.jp/>) から「Semiconductor FPD World について」→「バックナンバーはこちら」をクリックして見るができます。

- 『Material Stage』（技術情報協会編 技術情報協会 2001- 〈1346-3926〉【Z74-C308】）

材料科学の月刊専門誌です。毎号、エレクトロニクス・オプトニクス・エネルギー分野に用いられる様々な材料に注目して技術動向を提供しています。バックナンバーの目次は技術情報協会の Material Stage のページ

(http://www.gijutu.co.jp/doc/magazine_material%20stage.htm) からご覧いただけます。

- 『工業材料』（日刊工業新聞社 26cm 〈0452-2834〉【Z14-121】）

工業材料としての高分子、無機、金属およびそれらの複合材料に関する専門誌です。市場動向などの狭い意味でのビジネス情報はあまり掲載されておらず、技術そのものや技術動向の解説が中心となっています。日刊工業新聞社 Business Line (<http://pub.nikkan.co.jp/>) のページから過去 1 年分の目次をご覧いただけます。

4-2 雑誌記事・論文を探すためのツール

雑誌記事・論文の数は、技術情報専門雑誌に絞ったとしても膨大な量であり、ビジネス目的の利用者が関連するすべての雑誌記事・論文に目を通すことは到底、不可能です。そこで、利用者は、文献データベースを検索して自らが調べている内容に合致する雑誌記事・論文を見つけ、そこから原文に読みに行くという行動を取るようになります。技術関係の雑誌記事・論文を探すための文献データベースは、無料のもの、有料のもの、広く科学技術全般を扱ったもの、特定の分野に特化したもの等、多種多様ですが、ここでは、日本語の技術関係の雑誌記事・論文を探すのに有効な 3 つのデータベースを紹介します。

(1) NDL-OPAC(<http://opac.ndl.go.jp/index.html>)の雑誌記事索引

国立国会図書館（NDL）が提供する雑誌記事データベースです。採録誌は人文・社会／科学・技術／医学・薬学などあらゆる分野の学術雑誌、専門誌、機関誌や一般総合誌等です。採録誌の総数は 18,265 誌、現在も採録中の雑誌は 10,089 誌です。約 774 万件のデータ収録数があります。雑誌記事索引では、雑誌記事の論題名、著者名、掲載雑誌名などを検索語として、文献の掲載誌・掲載箇所を特定することができます。

(2) CiNii(<http://ci.nii.ac.jp/>)

国立情報学研究所 (NII) が提供する NII 論文情報ナビゲータ (NII Scholarly and Academic Information Navigator) の略称です。CiNii は学協会誌・大学研究紀要・国立国会図書館の雑誌記事索引データベースなど、学術論文情報を検索の対象とする論文データベース・サービスです。CiNii では無料一般公開されている論文は誰でも閲覧することが可能です。また、検索した論文の引用文献の一覧表示をすることもできます。

(3) JDream II

科学技術振興機構が提供する科学技術・医療分野の文献データベースです。(1)や(2)とは異なり、有料で提供されています。収録記事は、4,800 万件です。内外の科学技術分野の資料として、科学技術系のジャーナルを初め、学会誌、協会誌、企業・大学・独立行政法人・公設試験場等の技術報告、業界誌、臨床報告等を収録しています。多くの論文には抄録がついているので、ある程度の内容を把握できます。また、外国語文献についても日本語の抄録とシソーラスがついているので、日本語である程度の内容を把握できます。

今回の講義では、技術関係の雑誌記事・論文を幅広く収録し、きめ細かな検索が可能であり、かつ抄録により利用者の求める情報と合致する否かの判断がしやすい JDream II を中心に、その使い方を紹介します。

[参考] 欧文の雑誌記事・論文を探すためのデータベース

今回の講義では時間の関係上、欧文の雑誌記事・論文を探すデータベースは取り上げませんが、以下に、主なデータベースを参考まで紹介いたします。

《無料データベース》

欧文の技術関係雑誌記事・論文をインターネット上、無料で検索できるデータベースとしては、以下のようなものがあります。

・ British Library Direct (<http://direct.bl.uk/bld/Home.do>)

英国の国立図書館英国図書館 (British Library) が無料提供している雑誌記事・論文検索システムです。検索結果から原文の複写依頼を受け付けるサービスや原文電子ファイルのダウンロードサービス (有料) も提供しています。詳しくは、テーマ別調べ方案内「British Library Direct - 英国図書館の雑誌記事索引」

(http://www.ndl.go.jp/jp/data/theme/theme_honbun_400159.html) を参照して下さい。

- **Ingenta Connect** (<http://www.ingentaconnect.com/>)

Ingenta Connect は約 31,000 タイトルの雑誌・図書（電子ジャーナル約 6,000 誌を含む）を対象に、ペイ・パー・ビューによるダウンロードや複写物による文献提供サービスを行っています。文献の特定を可能にするため、2,500 万件強の雑誌記事・論文などの書誌情報を無料で提供しています。詳しくは、テーマ別調べ方案内「IngentaConnect で洋雑誌論文を検索し原文献を国立国会図書館から入手する」

(http://www.ndl.go.jp/jp/data/theme/theme_honbun_400092.html) を参照して下さい。

- **ArticleFinder** (<http://www4.infotrieve.com/search/databases/newsearch.asp>)

Infotrieve社が提供する雑誌論文検索・発注システムで、書誌事項の検索までは無料で行うことができます。採録誌数は 54,000 誌以上、収録レコード数は 2,600 万件以上です。サービス・ソースはMEDLINE、ERIC、IEEE、IEE、Infotrieve社が作成している雑誌目次情報のTable of Contents (TOC) および電子ジャーナル目次情報のeContentなどです。詳しくは、テーマ別調べ方案内「ArticleFinderで洋雑誌論文を検索し、原文献を入手する」(http://www.ndl.go.jp/jp/data/theme/theme_honbun_400143.html) を参照して下さい。

《有料データベース》

欧文の技術関係雑誌記事・論文の有料データベースには、様々なものがありますが、ここでは、有名な 2 つのデータベースを紹介します。なお、バイオテクノロジー、航空関係の技術、コンピュータ関連技術、セラミックス関連技術、環境技術のように分野に特化したデータベースも存在しますが、ここでは説明を省略します。

- **Web of Science**

Web of Science は TomsonScientific 社が提供する学術雑誌論文の書誌情報とその引用文献データベースです。Web of Science の採録誌は全世界の主要な学術誌約 9,300 誌で、採録対象年代は 1900 年以降です。各文献が引用文献リストを収録しており、文献間のリンクが張られているところに特徴があります。詳しくは、テーマ別調べ方案内「Web of Science (館内でのみ利用できます)」

(http://www.ndl.go.jp/jp/data/theme/theme_honbun_400294.html) を参照して下さい。

- Compendex

Elsevier Engineering Information 社が提供する工学分野の代表的な国際的論文書誌情報データベースです。全世界約 5,000 タイトルの雑誌収載論文と会議録収載論文を採録し、総計 900 万件以上の書誌レコードを提供し、年間約 50 万件の書誌レコードが追加されています。詳しくは、テーマ別調べ方案内「Compendex－工学論文書誌情報データベース（館内でのみ利用できます）」

(http://www.ndl.go.jp/jp/data/theme/theme_honbun_400265.html) を参照して下さい。

4-3. JDream II を用いた技術関係の雑誌記事・論文の検索方法

JDream II に収録されている多くの論文には抄録がついているので、ある程度の内容を把握することができます。また、外国語文献についても日本語の抄録とシソーラスがついているので、日本語である程度の内容を把握できます。JDream II には、有料データベース「JDream II」の一部のレコード（45 万／4,800 万件）を無料で公開している「無料お試し版」（<http://pr.jst.go.jp/jdream2/otameshi.html>）があります。

また、個人向けに JDream Petit（<http://pr.jst.go.jp/jdreampetit/>）というデータベースも提供されています。JDream petit は、1 ヶ月あたり 500 円で JDream II とほぼ同内容の検索が可能なので、頻繁に技術関係の論文を検索する利用者に対して紹介するとよいでしょう。また、J-Dream II の無料の研修会(<http://pr.jst.go.jp/training/jdream2.html>)が全国各地で開かれているので、受講するのもよいと思います。

4-3-1. JDream II できめ細かな検索する際に利用できる機能

(1) JST シソーラスブラウザ

JST シソーラスブラウザを用いると、検索に用いている単語に対する上位語、下位語、関連語を調べることができます。また、同義語を検索に加えて検索漏れを少なくすることも可能です。

(2) 頻度分析

検索結果の中から、指定したフィールドに多く含まれる語を分析することができます。「頻度分析を見て絞込検索」ボタンをクリックし、分析対象とするフィールドを指定して「実行」ボタンを押します。「シソーラス用語（下位語を除く）」を選択して頻度分析

をすると、検索結果でヒットしている文献に付与されている統制語が多い順にリストアップされます。また、「著者名」を選択して頻度分析をすると、検索結果でヒットしている文献の著者が多い順にリストアップされます。それぞれ所望の統制語や著者を選択して「絞り込み検索」ボタンを押すことで、検索結果を絞り込むことができます。

4-3-2. 事例:半導体を用いたアルコール検知器に関する雑誌記事・論文を探す

ここでは、JDream II を用いることで雑誌記事索引よりも幅広く文献情報を行えることを示します。

① 雑誌記事索引で 2005 年以降の文献を検索してみます。

→ 論題名に、「アルコール検知器」や「アルコール 検知器」などを入力して検索しても、該当する文献はヒットしません。

② JDream II で 2005 年以降の文献を検索してみます。

1) キーワード:「半導体」、「アルコール」、「検知器」の AND 検索をします。

→ 4 件ヒットします (2008.11.7 現在): 件数が少なく、検索もれの可能性あり

→ 「検知器」に同義語があるのではないかと疑います。

2) JST シソーラスブラウザで「検知器」を引き、同義語をすべて検索対象に加えて、再度、キーワード:「半導体」、「アルコール」と AND 検索します。

→ 244 件ヒットします (2008.11.7 現在): 件数が大きく増えて、検索もれはなくなったようですが、逐一、内容を確認していくには件数が多すぎます。

3) 頻度分析で「シソーラス用語 (下位語を除く)」を選択し、リストアップされた統制語の中から例えば検出限界について調べたいときには「検出限界」を採用します。

→ 39 件ヒットします (2008.11.7 現在): 件数が減りました。

→ 逐一、内容を見て確認していきます。

なお、JST シソーラスブラウザで参照することができる「下位語」を用いると 3)の代わりに以下のような絞り込みを行うことも可能です。

3)「検索結果を絞り込む」ボタンを押した後、JST シソーラスブラウザで「半導体」を引き、直近下位語の「化合物半導体」を検索対象に加えて検索します。

→ 32 件ヒットします (2008.11.7 現在): 件数が減りました。

→ 逐一、内容を見て確認していきます。

5. インターネット情報源

「テーマ別調べ方案内」では、調べものに使える信頼性の高いインターネット情報源を取り上げ、解題を付けて紹介しています。産業や技術に関する「テーマ別調べ方案内」では、主要な業界団体や主要な出版社のホームページなどを取り上げています。一例として、「電子部品・半導体技術産業に関する主要インターネット情報源」で取り上げているインターネット情報源の一部を紹介します。

● Tech-On! (<http://techon.nikkeibp.co.jp/>)

日経 BP 社が技術者向けに発信する情報サイトです。電子部品・半導体技術に関しては「電子部品テクノロジー」や「Silicon Online」などの項目があります。その他の分野では、「モバイル」、「通信」、「デジタル家電」、「ナノテク・新素材」などの情報が掲載されています。その他、『日経エレクトロニクス』、『日経ものづくり』、『日経マイクロデバイス』、『日経 Automotive Technology』など日経 BP 社の定期刊行物の最新号の目次ページなども見ることができます。

● Semiconductor Japan Net (<http://www.semiconductorjapan.net/>)

Semiconductor Japan Net は半導体・FPD・電子デバイスの総合サイトで、今月の半導体・FPD・エネルギー/環境・MEMS などの技術動向や市場動向などの最新ニュースを見ることができます。スペシャル企画の特集記事、連載記事、特別調査レポートなどを閲覧できる他、新製品情報やイベント情報、統計データ（半導体・FPD）なども掲載されています。また、半導体用語集もあり、各用語について簡単な解説がなされています。

● 社団法人日本半導体製造装置協会 (<http://www.seaj.or.jp/>)

社団法人 日本半導体製造装置協会(Semiconductor Equipment Association of Japan : 略称 SEAJ)は、1985 (昭和 60) 年に設立された半導体及びフラットパネルディスプレイ (FPD) 製造装置関連企業を主な会員とする団体です。ホームページでは、「半導体/FPD ってなに?」というテーマで半導体や FPD について分かりやすく解説しています。また、約 2,800 語を収録した「半導体製造装置用語集」があります。「統計資料」については、10 年分の半導体製造装置受注販売統計、3 年分の液晶パネル製造装置販売統計が提供されています。